

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 11 日現在

機関番号：24402

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24530468

研究課題名(和文) 企業家活動的キャリア戦略の日本的課題の解明：地域の産業創造のボトルネックの分析

研究課題名(英文) The bottleneck issues on entrepreneurs' career strategy in Japan

研究代表者

山田 仁一郎 (Yamada, Jin-ichiro)

大阪市立大学・経営学研究科・准教授

研究者番号：40325311

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：企業家活動的キャリア戦略は、イノベーションを生み出し、地域経済へ貢献することを期待され、注目を集めてきた。その一方で技術や知識を起点に事業創造するまでの組織化の過程や企業としての成果や節目までの道筋は十分に明らかにされてこなかった。本研究は、企業家たちのねらいとその帰結の問題について、長期間の複数ケーススタディを実施した。その結果、彼らの活動が「革新者型」と「再生産者型」の経営志向性に分かれるのが明らかになった。企業家のキャリア戦略は、経済合理性によってのみで決まるのではない。強い感情的な結びつきである社会情念的資産の論理に基づく相互作用の結果でもある、という含意が導き出される。

研究成果の概要(英文)：The model developed here explains the diverse exit strategies of entrepreneurs while these firms have different various stakeholder compositions and its distinctive development paths. I argue that venture survival and their career strategies are not strictly a function of economic performance but also depends on a firm's own threshold of performance. I apply the EVL model to the study of academic venture survival, in which two thresholds of economic and social index are determined by the key stakeholders' ownership influence such as the leading academic entrepreneurs. Utilizing four case studies, I find the some supportive evidence for the model. The findings suggest that the reason why entrepreneurs' career strategies may choose to continue or survive despite comparatively low economic performance.

研究分野：経営学

キーワード：企業家 キャリア戦略 サイエンス産業 文化コンテンツ産業 ベンチャー オーナーシップ 出口(エクジット) 事業創造

1. 研究開始当初の背景

企業家活動が活発であるかが国や地域、都市の国際競争力に影響を与えているという認識が浸透してきている。著名な調査機関が企業家活動の視点でランキングを発表することが他の経済指標同様に当然視されるようになった。各国は創業環境を整備する制度の整備等に尽力している。英国ロンドン大学と米国バブソン大学が中心になって継続的に実施しているグローバル・アントレプレナーシップ・モニタリング(GEM)においても、わが国企業家活動の水準は、2014年調査においても84カ国中のなかで最低位から2番目と長期的低迷を続けている。日本においても1999年に全面改正された中小企業基本法のもと、起業や創業といった営みが評価されてきた。2000年代の大学発ベンチャー政策が現在設立累計は2千社を越えたが、その経済効果や雇用などの経営成果については必ずしも肯定的な意見ばかりではない(小倉、2011)。日本の企業家活動の不活性化の原因は何かという問題意識が高まってきていた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、わが国の企業家活動(アントレプレナーシップ)の活力を高めるために、どのような日本の課題が産業のエコシステムの変化の中で存在しているのか、企業家的キャリア戦略の観点から解明することである。企業家活動の担い手となる人材は、未利用の機会や資源を探索・活用する。現在、わが国で蓄積された地域的な資源や知識は豊富に存在する一方で、国際競争に埋め込まれた地域経済と社会が新たに産業創造するためにはミクロな企業家活動レベルにボトルネックがあると推定することができ、その分析は少子高齢化が深度を深める中で社会における喫緊の課題である。本研究は、戦略的企業家活動論の枠組みに、不十分であったキャリア論と状況的学習論などの知見を加えたアプローチで分析を行う。

3. 研究の方法

本研究は、地域における新産業の創造過程における戦略的企業家活動が構造的にもつキャリア戦略の問題(入口・戦略的パートナー構築・出口)を明らかにするために、サイエンス型産業、文化型産業の調査研究を3年間のプロジェクトとして実施する。1年目は、文部科学省科学技術政策研究所(NISTEP)と連携して、理論的研究とサイエンス型産業における企業家活動を中心とする事例調査と分析を行う。2年目は、文化型産業の企業家活動の事例調査および比較分析を行う。3年目は二つの産業それぞれの事例調査のフォローアップを継続しながら、企業家活動のキ

ャリア戦略に関する体系的なフレームワークの構築を行う。

4. 研究成果

本研究課題の成果について、次のような整理ができる。

(1) 主な成果

本研究課題に関して、一定数のケーススタディを実行することによって、事業生態系と企業家活動の有機的な関係性に関する新たな理論的な枠組を構築した。この枠組みは、ベンチャー組織を創造する個人の企業家活動、その企業家活動が生み出されるプラットフォーム、プラットフォームを構成する地域コンテキストと産業コミュニティという3つのレイヤーによって、我が国の事業生態系の新陳代謝として企業家活動について、機能と機能不全の理由を推論し、説明している。

本研究の理論的な貢献として、次の3つの点が指摘できる。第1に、大学を基盤にした企業家活動や事業創造における組織化と存続・出口に関する理論的構築を行うという国際的学術視野レベルでの開拓に挑戦しており、一定の成果を収めている点である。企業家活動は、すなわち広義の革新(イノベーション)という通念的な図式に対して、ベンチャーが期待通りの革新者組織にも再生産者組織にもなり得る点を明示的に枠組みとして示したことは、大きな理論的な含意がある。

第2に、組織論と戦略論の両側面の観点から、大学発のハイテクベンチャーに関わる広義のコーポレート・ガバナンス(企業統治)論という理論的地平を切り開いた点も挙げることができる。事業創造の価値評価という難題について、経済的価値と社会情念的価値という2つの側面が関わることを提示し、組織化の過程から生まれる複合的なオーナーシップという要因が大学発ベンチャーの出口戦略の形成に関わることを明らかにした点は、理論的にも実践的にも含意がある。

第3に、地域レベルや産業フィールドのレベルをコンテキストとして付与した上で、企業家活動と利害関係者の複雑な問題について、企業家プラットフォームの形成理論(企業家タイプとタイプの連携)を応用して分析している。その結果、ケーススタディの考察を積み重ねながら、地域の事業創造が複数の組織レイヤーにまたがる統治の問題でもあることを明らかにした。

(2) 得られた成果の国内外の位置づけ

本研究の成果の主要な部分の一部は、中央経済社から研究代表者の単著として刊行された。現在、幾つかの学会誌での書評の掲載が予定されている。また、共同研究の成果は、韓国経営学会(Korean Academy of Management)の年次大会における招聘講演、ならびに2014年度の東京三菱UFJ銀行国際カンファレンスの場、国際経営学術連合学

会世界会議、国際日本ビジネス学会年次大会等で発表された。

また国内の専門学術雑誌においても組織科学(47巻3号)に掲載される他、研究代表者が関連主題の特集号を編纂(48巻1号)するなど、成果を形とすることができた。また、海外学術会に向けては、Routledge社ならびにEdward Elgar社からの学術書籍に掲載されるなど、上記の学会報告以外にも情報として発信している。

(3) 今後の展望

本研究主題についての課題は多い。企業家活動戦略のボトルネック問題を考えるにあたって、本研究プログラムは、大学発アントレプレナーシップの固有性に着目したが、それゆえの課題と限界がある。大学発アントレプレナーシップの現象に限定して議論を進めてきた。企業家研究者は大学等研究機関の場を通して、また往々にしてその身分を維持したままに事業の創造に関与する二重アイデンティティの問題を抱える。

加えて、大学などの知識創造機関が事業創造や企業家活動のインフラストラクチャとなり得るためには、二重のガバナンス機構としての問題を抱えることの可能性を本研究は指摘した。今後の展望としては、大学に限らぬ公的研究機関や大企業発の事業創造における課題や可能性について探求をする必要があるだろう。また地域における事業生態系の新陳代謝に、上記の課題がどのように関わっているのかについて、さらなる追加調査が不可欠であり、本研究も文化・伝統関連産業についての調査は、十分に及ばなかった。今後の課題としたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 3件)

山田仁一郎「ベンチャーの出口戦略と離脱・発言・忠誠」組織学会大会論文集、2014年、3(1)、pp.81-86。(査読あり)

山田仁一郎・松岡久美「企業家研究者の心理的オーナーシップ：大学発ベンチャーの2つの出口」組織科学、2014年、47(3)、pp.15-26。(査読あり)

山田仁一郎・松岡久美「企業家研究者のオーナーシップ：事業創造における親性とキャリア戦略」OCU-GSB Working Paper、2013年、pp.1-23。(査読なし)

[学会発表](計 18件)

Yamada, J. “Irreplaceable Relationship in Entrepreneurs' Career Solidarity: An Evidence from Japanese Film Industry,” The Association of Japanese Business Studies, 25th Annual Conference, 28th

June 2012, George Washington University. Washington D.C. (U.S.A.)

Yamada, J. “Contestation and Survival of University Ventures in Japan, The 3rd Annual Conference of the Academy of Innovation and Entrepreneurship, 9th July 2012, Convention Centre Macau Science Center. Região Administrativa Especial de Macau da República Popular da China.

山田仁一郎「企業家的研究者の心理的オーナーシップ」日本経営学会関西支部会、2012年11月17日、兵庫県立大学(神戸市)。

山田仁一郎「起業家社会の実現に向けて：アントレプレナーシップ教育の可能性」日本ベンチャー学会第15回全国大会・統一論題基調講演、2012年11月10日、武蔵大学(東京都)。

山田仁一郎・植田裕紀・柳淳也・中本龍市 “How has entrepreneurship research been formed in Japan?: Network Analysis of Japanese Authors over the period 1905-2012,” The Association of Japanese Business Studies, 26th Annual Conference, 2^{cd} June 2013, Istanbul Technical University. Istanbul(Turkey).

山田仁一郎・植田裕紀・柳淳也・中本龍市「日本のEntrepreneurship研究の形成過程の探求」日本ベンチャー学会全国大会第16回全国大会、2013年11月23日、沖縄大学(沖縄市)。

山田仁一郎・柳淳也・黄薇「成功した中国人企業家群のクラスター分析」日本ベンチャー学会全国大会第16回全国大会、2013年11月23日、沖縄大学(沖縄市)。

山田仁一郎・松岡久美「企業家研究者の役割と心理的関与：国内大学発ベンチャーの実証分析」日本ベンチャー学会全国大会第16回全国大会、2013年11月23日、沖縄大学(沖縄市)。

Yamada, J. “Some Issues for Global Value Chain Development of Japanese Firms in Asia: From the Perspective of Creative Industry Corporate Producers,” The 6th International Symposium on Service Innovation, 29th November 2013, Kyoto University(Kyoto).

山田仁一郎・山下勝・松井剛・三原龍太郎「クリエイティブ産業の国際バリューチェーン確立のために何ができるのか：海外市場開拓、組織戦略、人材育成、政策」組織学会定例研究会、2013年12月9日、東京都千代田区三菱コンファレンススクエア。

山田仁一郎「ベンチャーの出口戦略と離脱・発言・忠誠」組織学会研究発表大会、2014年6月22日、北海道大学（北海道札幌市）。

山田仁一郎・植田裕紀「社内企業家のエクジット構想と自律性」企業家研究フォーラム年次大会、2014年7月19日、大阪大学（大阪市北区中の島）。

山田仁一郎・林侑輝「電子書籍ビジネスモデルと新興市場参入戦略」企業家研究フォーラム年次大会、2014年7月19日、大阪大学（大阪市北区中の島）。

Yamada, J. and Matsuoka, K.

“Psychological Ownership and Two Exits on Academic Venturing: The Evidence from Japanese Case Studies,” The Mitsubishi UFJ Foundation International Conference Diversity and Conformity: Organization and Strategies in a New Era, August 29-31, 2014, International Productivity Center, Hayama, Kanagawa.

Yamada, J. and Cui, L. “Cross-border M&A Negotiation Process between Japan and Taiwan: A Case Study of Printed Circuit Board Industry,” International Federation of Scholarly Associations of Management World 12th Congress, 3th September 2014, in Tokyo, Meiji University(Tokyo).

Ueda, Y., Yanagi, J., Yamada, J. and Nakamoto, R. “The effects of usage of multiple translations of “Entrepreneurship” on entrepreneurship research: A citation network analysis in Japan between 1910-2012,” International Federation of Scholarly Associations of Management World 12th Congress 4th September 2014, in Tokyo, Meiji University(Tokyo).

Yamada, J. and Matsuoka, K.

“Psychological Ownership and Two Exits on Academic Venturing: The Evidence from Japanese Case Studies,” Korean Academy of Management Conference, 25th October 2014, Jeonju University, Jeonju (Korea).

山田仁一郎・松岡久美「地域の事業創造と大学発アントレプレナーシップ：香川県における希少糖プロジェクトの事例研究」日本ベンチャー学会全国大会、2014年11月29日、東京大学（東京都本郷）。

化と出口戦略』中央経済社、pp.1-436.,2015年。

Wakabayashi, N., Yamada, J. and Yamashita, M. “The Power of Japanese Film Production Consortia: The Evolution of Inter-Firm Alliance Networks and the Revival of the Japanese Film Industry,” R. DeFillippi & P. Wikstrom (Es.) International Perspectives on Business Innovation and Disruption in the Creative Industries, Edward Elgar Publishing.,pp.50-65., 2014.

忽那憲治・長谷川博和・高橋徳行・五十嵐伸悟・山田仁一郎『アントレプレナーシップ入門：ベンチャーの創造を学ぶ』有斐閣、1-220., 2013年。

Yamashita, M. and Yamada, J. “The Role of Entrepreneurs’ Career Solidarity toward Innovation: An Irreplaceable Relationship in Career Capital Pyramid,” pp.617-637, Larisa V. Shavinina Eds., the Routledge International Handbook of Innovation Education, 2013.

6. 研究組織

(1)研究代表者

山田 仁一郎 (Yamada, Jin-ichiro)

大阪市立大学・大学院経営学研究科・准教授

研究者番号：40325311

(2)研究分担者

松岡 久美 (Matsuoka, Kumi)

香川大学・経済学部・准教授

研究者番号：30325310

〔図書〕(計 4件)

山田仁一郎『大学発ベンチャーの組織